

〈原著論文〉

成人看護学実習中の実習指導行動に対する 学生評価と看護師自己評価

Nursing Students Evaluation and Nurse Self-valuation to Clinical Teaching Behavior
in Clinical Practice of Adult Nursing

山中 政子¹, 平賀 元美², 岩佐 美香³, 長谷川幹子⁴
池添 知夏⁵, 村上 理恵⁶, 武内 美恵⁷, 坂田 素子⁸

要旨

【目的】成人看護学実習中の実習指導行動に対する学生評価と看護師自己評価を行うことを目的とする。【方法】2016年10月～12月に成人看護学実習ⅠおよびⅡを履修した学生、および同時期に実習指導を経験した看護師（看護師長除く）を対象に、実習指導行動を評価するEffective Clinical Teaching Behaviors (ECTB)と強化した実習指導方法を問う質問紙調査を実施した。【結果】分析対象は、学生69名、看護師173名であった。ECTBの結果、看護師に対する学生評価は平均4.04 (SD0.26)で【学習意欲への刺激】が高く、教員に対する学生評価は平均4.20 (SD0.16)で【学習意欲への刺激】と【学生への理解】が高かった。看護師の自己評価の平均は3.60 (SD0.37)と学生評価に比べて低く評価していた。【考察】学生は看護師および教員の実習指導行動を高く評価していたことから、現行の実習指導体制を維持するとともに、看護師が実習指導の成果を実感できるような取り組みが必要であると示唆された。

キーワード：成人看護学実習, 実習指導行動, 看護学生

clinical practice of adult nursing, clinical teaching behavior,
nursing students

I. 緒言

看護学実習とは、学生が既習の知識、技術を基にクライアントと相互行為を展開し、看護目標達成に向かいつつ、そこに生じた現象を教材として看護実践能力を習得するという学習目標達成を目指す授業である（杉森他, 2016）。看護学生には、看護師に必要となる高度な看護実践能力と医療人としての職業倫理、看護専門職としてのアイデンティティの習得が要請されており、医療現場に身を置き学習する臨地実習は重要な役割を有する。臨地実習では、看護学生が主体的に考え、行動す

ることが求められている。しかし、臨地実習の主な場である病院では、医療の高度化や高齢化に伴う患者の安全確保上の問題や在院日数の短縮化に伴い学生が受け持つ患者の選定が狭められており、看護師免許を持たない学生が実施できる技術の提供に制限がある。

このような状況においては、臨地実習における教育体制の工夫が必要となる。厚生労働省の「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」では、臨地実習の学習効果を高めるために実習指導者と看護学教員（以下、教員）が協働して実習指導を行うことが望ましく、学生の学習状況や実習進度

- 1 Masako YAMANAKA 千里金蘭大学 看護学部
- 2 Motomi HIRAGA 千里金蘭大学 看護学部
- 3 Mika IWASA 千里金蘭大学 看護学部
- 4 Mikiko HASEGAWA 千里金蘭大学 看護学部
- 5 Chika IKEZOE 一般社団法人住友病院 看護部
- 6 Rie MURAKAMI 一般社団法人住友病院 看護部
- 7 Mie TAKEUCHI 一般社団法人住友病院 看護部
- 8 Motoko SAKATA 一般社団法人住友病院 看護部

受理日：2017年9月8日

査読付

について共有し、指導を適切に分担していくことが必要であるとされている。実習指導者と教員の連携については、教員が実習指導者に対し【学生の学習状況に合わせた指導の内容・方法を具体的に説明し、その実施を依頼する】【適宜、学生のレディネスを伝える】【学習成果、実習目標達成度を含めた学生の学習状況を伝える】【学生個々の目標達成状況について確認し合う】を行っている」と報告されている（河内他, 2016）。また、教員は机上の学習内容を患者に適用できるよう実習指導者と調整し、実習指導者は現場のイニシアティブをとり看護上大切にしていることや実践的な看護を学生に伝えることで、双方が役割分担を行っている」と報告されており（林他, 2016）、臨地実習での学習目標達成において実習指導者と教員の連携・協働は重要であるといえる。

A大学は、主たる実習施設であるB病院（急性期病院）と実習指導評価ワーキンググループ（以下、実習指導評価WG）を設け、臨地実習における実習指導および評価に関する課題に対し、臨床と大学で連携して取り組み、より良い実習指導のあり方を検討することを目的に活動している。A大学ではB病院主任看護師会議と連動して実習指導役割を明文化して見直しを行い、2012年度よりその評価として学生対象にEffective Clinical Teaching Behaviors（以下、ECTB）を用いて実習指導行動を評価してきた。しかし、2015年度の看護師（実習指導者含む）の実習指導行動に対する学生評価は平均3.82 SD0.80であり（中本他, 2016）、ECTBでは4.0の「だいたいそうである」が通常普通の評価とされている（藤堂他, 2011）ことから高いとはいえなかった。そこで、平成28年度は、実習指導体制の強化として、主任看護師である実習指導者は、「学生が立案した看護計画を看護師の看護計画に反映させ、チームの一員として共に実施できるようにする」、「受け持ち患者の病棟カンファレンスに参加する機会を設け、学生の看護計画が実践できるよう支援する」、「計画内容の実施を通して達成感が味わえるよう支援する」に取り組んだ。また、日々の指導を担当する看護師（以下、日々の指導看護師）は、「学生がうまくできた時にはそのことを伝える」、「必要な患者の情報を提供する」、「学生に積極的に困っていることがないか声をかける」、「学生と話をする時は視線を合わせて相槌を打つ」、「自己紹介してから日々の指導を開始する」に、さらに教員は、「指導者からの日々の指導

場面やケア実施場面を見守り、学生の行動を評価し、指導する」、「実習記録を通して、看護実践の思考を評価し、指導する」、「実習体制や実習方法に関する連絡・調整を行う」、「適切で効果的な指導について、日々の指導者にフィードバックすること」に取り組んだ。大学側では、成人看護学領域が2015年度より看護過程演習で看護診断を教授し、成人看護学実習でも導入している。また、2016年度からは、学生数の増加に伴い1名の教員が2病棟を担当している。このような実習指導評価WGでの実習指導方法の強化と成人看護学実習の指導体制の変更を受け、臨地実習を受ける学生が看護師や教員の実習指導行動をどのように評価しているのか、また、実習指導を担う看護師は自身の実習指導行動をどのように評価しているのかについて明らかにする必要があると考えた。

II. 研究目的

本研究の目的は、成人看護学実習（急性期・慢性期）における実習指導行動を評価するために、当該実習を履修した学生による看護師および教員に対する他者評価と、実習指導を担当した看護師による自己評価を行い、実習指導への示唆を得ることである。

III. 成人看護学実習 I・IIの概要

1. 成人看護学実習の目的

成人看護学実習 I は、急性期や手術を体験する対象者への看護実践ができるための基礎的能力を養うとともに、専門職業人としての創造性を持った思考を深め、さまざまな急性期治療の場における看護の役割と看護援助の実際を、看護過程の展開を通して学ぶことを目的としている。

成人看護学実習 II は、長期にわたる療養生活や徐々に進行する慢性疾患を持つ対象を受け持ち、看護過程を展開するなかで、健康障害を持ちながら生活を送ることを考慮し、心理・社会的側面や家族の抱える問題を明確にするなど対象を多面的・統合的に捉えることのできる基礎的能力を養う。その上で、日常生活の支援を行いながら、セルフケアの確立にむけた看護実践を行うとともに、看護専門職として必要な態度を養う。また、リハビリテーションの過程における看護の特徴や、がんおよび終末期患者の理解に努め、生命の尊厳およ

び看護のあり方についての考えを深めることを目的としている。

2. 成人看護学実習の実習指導

1) 実習指導内容

1 病棟に3～5名の学生を配置し、2病棟を教員1名が担当している。実習期間は3週間で、水曜日を帰校日とする。実習初日に受け持ち患者を選定し、患者に実習協力への説明・同意を得て情報収集を開始する。翌日より受け持ち患者の看護過程を展開する。2週目に中間カンファレンスを行い、受け持ち患者の関連図をもとに看護診断を確定するまでのアセスメントと看護の方向性を発表し、実習指導者から助言を受ける。実施した看護援助と患者の反応から看護目標の達成度と看護計画の妥当性について評価し、看護計画の修正・追加を行い、看護援助を実施するというプロセスを実施していく。最終日には最終カンファレンスを行い、実施した看護援助を評価し、自己の学びと課題を発表する。

2) 実習指導体制

病院側：主任看護師が実習指導者の役割を有する。毎日の学生指導は実習指導者が担当する場合と、日々の指導看護師が担当する場合がある。学生指導を担当するのは看護師経験3年目以上としている。主な実習指導行動として、学生が立案した看護計画への助言、患者へのベッドサイドケアを通した看護ケアの指導、学生の看護ケアに対するフィードバック、学生カンファレンスへの参加と助言を行っている。

大学側：成人看護学領域の教員が終日病棟において実習指導を行っている。主な実習指導行動として、実習指導者・日々の指導看護師からの指導場面やケア実施場面を見守り、学生の行動の評価・指導、実習記録を通した看護実践の思考の評価・指導を行っている。

病院側と大学側の連携：実習体制や実習方法に関する連絡・調整、学生の日々の学習状況や思考と実践上の課題についての情報共有、学生の看護計画と病棟の看護にずれが生じないように看護の方向性の打ち合わせを行っている。

IV. 研究方法

1. 研究デザイン

無記名の自記式質問紙調査

2. 研究対象者

2016年10月～同年12月の期間にB病院で成人看護学実習Ⅰ（急性期）とⅡ（慢性期）、またはその両方を受けたA大学の学生84名、および、同時期に実習指導を担当した経験のある看護師と実習指導者（以下、看護師）201名。対象者は、質問紙への回答を以て本研究への参加に同意が得られた者とした。

なお、成人看護学実習を担当する教員は5名であり、統計処理上の標本数として少ないため、教員の実習指導行動に対する評価は学生からの他者評価のみとし、教員を対象とした質問紙調査は実施していない。

3. データ収集方法

1) 調査内容

- (1) 学生に対しては、学生が受けた実習科目（成人看護学実習Ⅰおよび成人看護学実習Ⅱ）。看護師に対しては、実習指導の経験年数。
- (2) 看護師および教員の実習指導行動に対する学生評価

Zimmerman et al (1988) が開発したECTB評価表をもとに作成された日本語版ECTB（中西他、2002）を使用した。この尺度は臨地実習における実習指導行動を評価するものであり、信頼性・妥当性が確保されている。ECTBは【実践的な指導】【理論的な指導】【学習意欲への刺激】【学生への理解】の4要素と【要素外の項目】からなり、計43の質問項目に分類されている。「いつもそうである」～「まったくそうでない」までの5段階評価で点数が高いほど効果的な指導を受けたと感じていることを意味している。学生には指導を受けた看護師(201名)および教員(5名)に対して評価をしてもらった。

(3) 実習指導行動の取り組みの評価

実習指導体制の強化として看護師が取り組んでいる実習指導行動を評価するために、独自に作成した質問項目を設けた。その項目は、学生の行動計画発表や報告の場における看護師の態度、患者カンファレンスへの参加、実習指導者と大学教員間の連携等の8項目で、2件法（はい、いいえ）とした。

(4) 実習指導行動に対する看護師の自己評価

学生評価と同様にECTBを用いた。

2) 質問紙の配布および回収方法

質問紙は、12月の成人看護学実習が終了した1週間後に、対象者に対し研究の趣旨と参加につい

て説明した後に配布し、鍵のかかる回収ボックスへ対象者自身が投函する方法で回収した。

4. 分析方法

統計解析にはSPSS Ver.19を使用した。収集したデータの入力とクリーニングを行い、ECTBは得点化し、平均値と標準偏差を算出し、独自に作成した質問項目は単純集計した。

V. 倫理的配慮

本研究は、千里金蘭大学の疫学研究倫理審査委員会の承認（通知番号284）を受けて実施した。対象学生に対し、当該実習の成績判定者ではない研究者が、研究の目的と方法、研究参加の自由意思、匿名性の確保、個人情報保護、研究参加の有無による不利益がないこと等を文書と口頭で十分に説明した。研究参加の説明と同意は、個人としての対象者の人権に配慮した。質問紙調査は無記名とし、回収箱の周囲には研究者が立ち入らないようにして匿名性と研究協力の任意性を確保した。また、対象看護師に対し、業績評価者でない研究者が、研究の目的と方法、研究参加の自由意思、匿名性の確保、個人情報保護、研究参加の有無による不利益がないこと等を文書と口頭で十分に説明した。研究参加の説明と同意は、個人としての対象者の人権に配慮した。質問紙調査は無記名とし、回収箱は職場から離れた会議室に設置して匿名性と研究協力の任意性を確保した。

VI. 結果

質問紙調査の回収数は学生69名（回収率82.1%）で有効回答は69名、看護師188名（回収率93.5%）で有効回答は173名であった。学生が履修した実習区分は、急性期24名、慢性期45名で、看護師の実習指導経験年数は平均6.7 (SD5.9) 年であった。

1. 実習指導行動に対する学生評価および看護師自己評価

ECTBを用いた看護師および教員の実習指導行動に対する学生評価と看護師自己評価は表1に示すとおりである。

看護師に対する学生評価の平均は4.04 (SD0.26) で、要素ごとに【実践的な指導】3.99 (SD1.05)、【理論的な指導】4.00 (SD1.00)、【学習意欲への刺激】4.06 (SD0.98)、【学生への理解】4.00 (SD1.05)、【要素外の項目】4.18 (SD0.96) であった。教員に対する学生評価の平均は4.2 (SD0.16) で、要素ごとに【実践的な指導】4.08 (SD1.06)、【理論的な指導】4.20 (SD1.03)、【学習意欲への刺激】4.22 (SD1.00)、【学生への理解】4.22 (SD1.07)、【要素外の項目】4.26 (SD1.00) であった。看護師の自己評価の平均は3.6 (SD0.37) で、要素ごとに【実践的な指導】3.51 (SD1.09)、【理論的な指導】3.50 (SD1.11)、【学習意欲への刺激】3.54 (SD1.09)、【学生への理解】3.73 (SD1.11)、【要素外の項目】3.75 (SD1.08) であった。

素外の項目】4.18 (SD0.96) であった。教員に対する学生評価の平均は4.2 (SD0.16) で、要素ごとに【実践的な指導】4.08 (SD1.06)、【理論的な指導】4.20 (SD1.03)、【学習意欲への刺激】4.22 (SD1.00)、【学生への理解】4.22 (SD1.07)、【要素外の項目】4.26 (SD1.00) であった。看護師の自己評価の平均は3.6 (SD0.37) で、要素ごとに【実践的な指導】3.51 (SD1.09)、【理論的な指導】3.50 (SD1.11)、【学習意欲への刺激】3.54 (SD1.09)、【学生への理解】3.73 (SD1.11)、【要素外の項目】3.75 (SD1.08) であった。

2. 学生評価および看護師自己評価によるECTB高得点5項目

ECTBを用いた看護師および教員の実習指導行動に対する学生評価と看護師自己評価の高得点5項目は表2に示すとおりである。学生の看護師評価高得点5項目は高い順に、「6.看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかける」「4.学生に対し（裏表なく）率直である」「3.グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしている」「32.患者様と良い人間関係をとっている」「5.学生に対し客観的な判断をしている」であった。学生の教員評価高得点5項目は高い順に、「43.学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助している」「12.専門的な知識を学生に伝えている」「13.学生同士で自由な討論ができるようにしている」「42.学生の受け持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示している」「8.カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導している」であった。看護師の自己評価高得点5項目は高い順に、「1.学生に実習する上での情報を提供している」「5.学生に対し客観的な判断をしている」「4.学生に対し（裏表なく）率直である」「2.ケアの実施時に、（学生に）基本的な原則を確認している」「10.学生がうまくやれた時には、そのことを伝えている」であった。

3. 学生評価および看護師自己評価によるECTB低得点5項目

ECTBを用いた看護師および教員の実習指導行動に対する学生評価と看護師自己評価の低得点5項目は表3に示すとおりである。学生の看護師評価低得点5項目は低い順に、「19.より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っている」「17.学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っている」「24.記録物の内容について適切なアド

表1 ECTB結果

ECTB	学生評価 (n=69)				看護師自己評価 (n=173)	
	看護師		教員		平均値	SD
	平均値	SD	平均値	SD		
実践的な指導	3.99	1.05	4.08	1.06	3.51	1.09
2. ケアの実施時に、(学生に) 基本的な原則を確認してくれていますか?	4.01	0.98	4.04	1.06	4.11	0.89
12. 専門的な知識を学生に伝えるようにしてくれていますか?	4.28	0.86	4.43	0.74	3.77	1.16
16. 学生に対して看護師として良いモデルになっていますか?	4.28	0.78	4.26	0.87	3.39	0.99
21. 理論的内容や、既習の知識・技術などを実際に臨床の場で適用してみるように働きかけてくれていますか?	3.88	1.13	3.97	1.20	3.34	1.10
25. 記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか?	3.46	1.38	3.91	1.26	2.80	1.22
31. 必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示してくれていますか?	4.01	1.14	3.86	1.26	3.64	1.17
理論的な指導	4.00	1.00	4.20	1.03	3.50	1.11
5. 学生に対し客観的な判断をしてくれていますか?	4.30	0.94	4.38	0.89	4.15	1.08
6. 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけてくれていますか?	4.39	0.77	4.38	0.93	3.84	1.06
7. 学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働きかけてくれていますか?	4.29	0.77	4.38	0.93	3.77	1.03
14. 学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援してくれていますか?	4.26	0.76	4.38	0.81	3.55	1.04
19. より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言ってくれていますか?	3.39	1.32	3.78	1.29	2.87	1.22
20. 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言ってくれていますか?	3.90	1.11	4.06	1.11	3.38	1.11
24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしてくれていますか?	3.45	1.35	4.09	1.28	2.92	1.23
学習意欲への刺激	4.06	0.98	4.22	1.00	3.54	1.09
8. カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導してくれていますか?	4.13	0.84	4.41	0.71	3.85	1.11
15. 学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事していますか?	4.14	0.84	4.22	1.03	3.47	1.06
18. 学生が実施してよい範囲・事柄を、実習の過程に応じて明確に示してくれていますか?	3.88	1.09	4.06	1.14	3.56	1.11
23. 学生がより高いレベルに到達できるような対応をしてくれていますか?	3.99	1.09	3.99	1.18	3.39	1.02
27. 学生が新しい体験ができるような機会を作ってくれていますか?	4.06	1.19	4.13	1.22	3.36	1.16
30. 実習グループの中で、学生が互いに刺激あって向上できるように働きかけてくれていますか?	3.84	1.12	4.12	1.11	2.77	1.27
33. 学生が新しい状況や今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけをしてくれていますか?	4.04	1.12	4.14	1.17	3.66	1.13
35. 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけてくれていますか?	4.00	0.94	4.23	0.93	3.51	1.03
37. 学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助してくれていますか?	4.13	0.75	4.28	0.91	3.65	1.09
38. 学生に良い刺激となるような話題を投げかけてくれていますか?	4.01	1.02	4.16	0.98	3.51	1.05
41. 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけてくれていますか?	4.09	0.92	4.26	0.93	3.60	1.03
42. 学生の受け持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示してくれていますか?	4.25	0.93	4.41	0.85	3.83	1.07
43. 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助してくれていますか?	4.28	0.84	4.45	0.83	3.80	1.03
学生への理解	4.00	1.05	4.22	1.07	3.73	1.11
4. 学生に対し(裏表なく)率直ですか?	4.36	0.77	4.33	0.90	4.15	1.15
9. 学生に対し思いやりのある姿勢でかわってくれていますか?	4.22	0.86	4.33	0.93	3.94	1.08
10. 学生がうまくやれた時には、そのことを伝えてくれていますか?	4.14	1.09	4.20	1.23	4.07	1.11
11. 学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしてくれていますか?	3.55	1.09	4.06	1.11	3.80	1.12
13. 学生同士で自由な討論ができるようにしてくれていますか?	4.20	0.93	4.42	0.79	2.84	1.45
17. 学生が気軽に質問できるような雰囲気を作ってくれていますか?	3.42	1.24	4.12	1.22	3.61	1.08
22. 学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求ですか?	4.19	1.10	4.30	1.12	3.82	1.06
26. 学生一人一人と、良い人間関係をとるようにしてくれていますか?	3.87	1.24	4.19	1.23	3.46	1.12
28. 物事に対して柔軟に対応してくれていますか?	4.09	1.11	4.13	1.17	3.72	1.03
34. 学生の言うことを受け止めてくれていますか?	4.13	1.03	4.19	1.18	3.90	1.05
39. (病棟の看護師間で) 指導の方法は統一していますか?	3.87	1.04	4.06	1.01	3.62	1.05
40. 学生に対し、忍耐強い態度で接してくれていますか?	3.97	1.06	4.26	0.96	3.80	1.08
要素外の項目	4.18	0.96	4.26	1.00	3.75	1.08
1. 学生に実習する上での情報を提供してくれていますか?	4.13	0.86	4.28	0.86	4.25	0.80
3. グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしてくれていますか?	4.35	0.85	4.39	0.93	3.64	1.11
29. 実習の展開経過において、適切なアドバイスをしてくれていますか?	3.94	1.12	4.10	1.15	3.58	1.07
32. 患者様と良い人間関係をとっていますか?	4.32	1.09	4.20	1.16	4.00	1.09
36. 担当指導教員と良い人間関係を保っていますか?	4.17	0.86	4.30	0.91	3.28	1.34
計	4.04	0.26	4.20	0.16	3.60	0.37

表2 ECTB高得点5項目

ECTB	学生評価		看護師自己評価
	看護師	教員	
1位	6.看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけてくれていますか？	43.学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助してくれていますか？	1.学生に実習する上での情報を提供していますか？
2位	4.学生に対し(裏表なく)率直ですか？	12.専門的な知識を学生に伝えるようにしてくれていますか？	5.学生に対し客観的な判断をしていますか？
3位	3.グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしてれていますか？	13.学生同士で自由な討論ができるようにしてくれていますか？	4.学生に対し(裏表なく)率直ですか？
4位	32.患者様と良い人間関係をとっていますか？	42.学生の受け持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示してくれていますか？	2.ケアの実施時に、(学生に)基本的な原則を確認していますか？
5位	5.学生に対し客観的な判断をしてれていますか？	8.カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導してくれていますか？	10.学生がうまくやれた時には、そのことを伝えていますか？

バイスをしている」「25.記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えている」「11.学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしている」であった。学生の教員評価低得点5項目は低い順に、「19.より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っている」「31.必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示している」「25.記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えている」「21.理論的内容や、既習の知識・技術などを実際に臨床の場で適用してみるように働きかけている」「23.学生がより高いレベルに到達できるような対応をしている」であった。看護師の自己評価低得点5項目は低い順に、「30.実習グループの中で、学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけている」「25.記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えている」「13.学生同士で自由な討論ができるようにしている」「19.より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っている」「24.記録物の内容について適切なアドバイスをしている」であった。

4. 実習指導行動の取り組みの評価

設問①「計画発表や報告時に座れるようにしていた」は「はい」、63名「いいえ」6名、設問②「計画発表時は学生を受け入れる対応であった」は「はい」、63名「いいえ」6名であった。設問③「目標・計画発表・看護計画の発表時間」は「10分以内」1名、「11～15分未満」64名、「15～20分」4名、「21～30分」で、設問④「その時間の長さについて」は「短い」65名、「ちょうどよい」3名、「長い」0名、「未記入」1名であった。設問⑤「計画発表の際はあなたの看護計画を尊重してアドバイスしていた」は「はい」

65名、「いいえ」3名、「未記入」1名で、設問⑥「看護援助実施の際は学生が立案した看護計画を遂行できるようサポートしていた」は「はい」67名、「いいえ」1名、「未記入」1名であった。設問⑦「患者カンファレンスを見学もしくは参加したことがある」は「はい」30名、「いいえ」38名、「未記入」1名であった。設問⑧「実習指導者と担当教員間の連携は図れていた」は、「はい」68名、「いいえ」1名であった。

Ⅶ. 考察

1. ECTB得点の学生評価および看護師自己評価の比較

ECTB得点より、実習指導行動に対する学生の評価は、看護師が平均4.04 (SD0.26)、教員が平均4.2 (SD0.16) と、ともに4.0を上回る高得点を得た。先行研究(藤堂他, 2011)では、成人看護学慢性期・終末期実習を受けた学生のECTB得点が、実習指導者は平均3.61 (SD0.877)、教員は平均3.67 (SD1.002) であることから高い評価を得たと言える。要素別にみると、看護師に対する評価が高かったのは【学習意欲への刺激】で、教員に対する評価が高かったのは【学習意欲への刺激】と【学生への理解】であった。看護師、教員共に、学生の実習目標達成に向けて学習の成果を得るための学習行動には動機づけが必要だと意識して【学習意欲への刺激】を行っていることが推察される。また、千田他(2011)は学生が患者との関係性の構築や実習指導者との関係に困難を感じていると報告しているが、教員がそのような【学生の理解】のもと、学生の困難を察知して緊張感をほぐし、人間関係の調整を行っていることが示唆された。

表3 ECTB低得点5項目

ECTB	学生評価		看護師自己評価
	看護師	教員	
1位	19.より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか？	19.より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか？	30.実習グループの中で、学生が互いに刺激あって向上できるように働きかけてくれていますか？
2位	17.学生が気軽に質問できるような雰囲気を作ってくれていますか？	31.必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示してくれていますか？	25.記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか？
3位	24.記録物の内容について適切なアドバイスをしてくれていますか？	25.記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか？	13.学生同士で自由な討論ができるようにしてくれていますか？
4位	25.記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか？	21.理論的内容や、既習の知識・技術などを実際に臨床の場で適用してみるように働きかけてくれていますか？	19.より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか？
5位	11.学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしてくれていますか？	23.学生がより高いレベルに到達できるような対応をしてくれていますか？	24.記録物の内容について適切なアドバイスをしてくれていますか？

しかし、看護師の自己評価は平均3.6 (SD0.37)と学生評価より低かった。影本他のECTB調査(影本他, 2008)においても、成人看護学実習における学生評価は看護師自己評価よりも高いと報告しており、本結果も同様であった。泊他(2010)は、実習指導経験者が、こんな指導でいいのか不安、記録の指導ができない、という指導力の不足や、指導者間の連携不足、業務との兼務で指導する時間がない、指導方法が統一されていない、という指導者への支援体制の不足を困難に感じていると報告している。看護師は、主に看護援助の計画、実施、評価の面で直接学生を指導しているが、自分の思考や根拠を理路整然と説明できる能力が未熟な学生の様子からは、指導の成果が実感しにくく、実習指導行動を低く自己評価したのだと推察する。また、看護業務と学生指導を同時に実施せざるを得ない状況の中、満足のいく学生指導が実施できないもどかしさからも低く自己評価したのではないかと考える。高島他(2008)は、実習指導者が実習指導・支援は学びであり自己成長を促すものであると報告している。業務との兼務の中、業務調整をしながらの実習指導は負担感も拭えないが、教員が学生の学びや成長を看護師に伝えることや、実習指導の意義として自身の成長も促されることが意識できるよう、看護管理者と教員が関わっていくことが必要になると考える。

2. ECTBの高得点項目の比較

ECTBを用いた看護師の実習指導行動に対する学生評価で高得点だった「6.看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけている」と「32.患者様と良い人間関係をとっている」は、看護

専門職としてのモデルを学生に示す関わりであり、「4.学生に対し(裏表なく)率直である」と「5.学生に対し客観的な判断をしている」は教育者としての倫理規範に沿う公平な態度を示していると言える。このような指導により、学生は理想とする看護師像を重ね合わせて、より成長が促進されるものと考えられる。また、「4.学生に対し(裏表なく)率直である」と「5.学生に対し客観的な判断をしている」は、看護師自己評価でも高得点項目に入っており、看護師自身が意識的に実行している関わりが学生に十分伝わっていることが示された。千田他(2011)は、学生に対する看護師の言葉や態度が冷たかった経験から実習指導者との関係に困難を感じることもあると報告しているが、本結果からは、看護師がサポータティブな態度で学生に接している様子が伺えた。これは、実習指導体制の取り組みを評価する設問「計画発表や報告時に座れるようにしていた」や「計画発表時は学生を受け入れる対応であった」でも69名中63名が「はい」と答えていることから裏付けられている。このような関わりを受ける学生は、質の高い指導を得てより成長できるものと考えられる。

ECTBを用いた教員の実習指導行動に対する学生評価で高得点だった「43.学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助している」や「42.学生の受け持ち患者と、その患者へのケアに関心を示している」は、教員がベッドサイドでの学びを重視した指導や調整を行っていることを示している。また、「13.学生同士で自由な討議ができるようにしている」や「8.カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導している」は、実習の場で発言することをためらう学生を教

員がファシリテートしている状況や、学生の思考を助ける指導が推測される。現在、看護師が行う患者カンファレンスを見学または参加したことのある学生は約半数の30名であるが、この取り組みが軌道に乗れば、看護師間のディスカッションをモデルとして、看護の役割への認識を深め、より活発に発言できるようになると考える。

さらに、実習指導体制の取り組みを評価する設問「計画発表の際はあなたの看護計画を尊重してアドバイスしていた」や「看護援助実施の際は学生が立案した看護計画を遂行できるようサポートしていた」の結果からは、看護師も学生の看護計画を重視して指導していることが示された。「計画発表の時間」を短く感じている学生が多いという結果からは、より助言を受ける機会であると認識していることが推察される。これらより、学生は受け持ち患者への看護計画を遂行できる十分な支援体制のもとで実習していることがわかった。

3. ECTBの低得点項目の比較

ECTBを用いた看護師の実習指導行動に対する学生評価と看護師自己評価で共通して低得点だったのは「24.記録物の内容について適切なアドバイスをしている」であった。実習記録内容への指導は主に教員が担当しているため、この設問が低得点であるのは無理からぬ結果と言える。看護師と教員に対する学生評価と看護師自己評価で共通して低得点だったのは「25.記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えている」と「19.より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っている」であった。この2項目については、実習記録の指導に直接関わる実習指導行動であり、教員の課題であると言える。急性期病院で実習していることから、受け持ち患者への看護展開が早く、患者の状態変化に合わせたタイムリーな指導がより必要となる。また、看護援助や評価の科学的根拠を示すための文献の活用は重要である。今後は、受け持ち患者を通してより学びの視野が広まるように文献の活用を指導していく必要がある。一方、看護師への学生評価で低かったのは「17.学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っている」と「11.学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしていますか」であった。千田他(2011)は、学生の困難として、看護師が忙しそうで声をかけていか戸惑い、看護師に声をかけてもらえず悲しかったことがある

と報告している。急性期病院において実習指導時間を確保することは難しいが、前述の結果から、看護師が学生に真摯に向き合っていることは明らかである。また、学生評価の低得点項目は最低点でも看護師への評価(項目19)の3.39(SD1.32)であり、実習指導行動は現行の方法を持続させることで学生の実習目標達成に向かうものと考えられる。

VIII. 結論

成人看護学実習中の看護師および教員の実習指導行動に対する学生評価と、自身の実習指導行動に対する看護師の自己評価を調査した結果、以下のことが明らかになった。

1. 学生は看護師および教員の実習指導行動を高く評価しており、看護師では【学習意欲への刺激】が高く、教員では【学習意欲への刺激】と【学生への理解】が高かった。学生により良い実習指導を行うためには、現行の実習指導行動を継続させることが必要と示唆された。
2. 実習指導行動に対する看護師の自己評価は、全体的に学生評価より低く、看護業務との兼務で満足できる実習指導が行えず、また、学生の学びの成果が実感できにくいためと考えられた。

本研究は1施設での1回調査のため一般化するには限界がある。今後は、ECTB調査を継続し、実習指導行動の継続性を評価していく必要がある。

謝辞

本研究の質問紙調査にご協力いただきました学生の皆さま、看護師の皆さまに厚くお礼申し上げます。

本研究は、千里金蘭大学特別研究(A)の助成を受けて実施した。

文献

- 林みよ子, 横山しのぶ, 石橋かず代, 山口真有美, 沼澤和実. (2016). 臨地実習に携わる看護職者の指導行動と協働についての認識-実習指導者・教員・一般看護師の比較-. 天理医療大学紀要, 4(1), 1-10.
- 影本民子, 合田友美, 大島亜由美, 中西啓子. (2008).

成人看護学慢性期・終末期の実習指導の分析－
ECTB評価スケールを用いて－. 川崎医療短期大
学紀要, 28, 27-31.

河内直美, 松田安弘, 山下暢子, 吉富美佐江. (2016).
実習指導者からの支援を獲得するために看護学
教員が実践している教授活動－実習目標達成に
向けて－. 群馬県立県民健康科学大学紀要, 11,
23-48.

中本明世, 富澤理恵, 森岡広美他. (2016). 成人看
護学実習において指導者から受けた指導に対す
る学生による評価と自己効力感の関連. 第36回
日本看護科学学会学術集会抄録集.

千田寛子, 堀越政孝, 武居明美, 越井英美子, 恩
幣宏美, 岡美智代, 神田清子, 二渡玉江. (2012).
成人看護学実習における看護学生の抱える困難
感の分析. 群馬保健学紀要, 32, 15-22.

杉森みど里, 舟島なをみ. (2016). 看護教育学第
6版, 254, 医学書院.

高島尚美, 渡部節子, 青木由美恵, 五木田和枝,
屋宜譜美子. (2008). 成人学習者としての経験
を活かした臨地実習指導者研修プログラムにお
ける学びの様相. 横浜看護学雑誌, 1(1), 35-43.

泊祐子, 栗田孝子, 田中克子. (2010). 臨地実習
指導者の指導経験による“指導のとらえ方”の変
化と必要な支援の検討. 岐阜県立看護大学紀要,
10(2), 51-57.

藤堂由里, 近藤栄津子, 影本妙子, 濱松恵子, 中
西啓子. (2011). 学生による成人看護学慢性期・
終末期の実習指導評価. 川崎医療短期大学紀要,
31, 33-38.

Zimmerman L, Westfall J. (1988). The development
and Validation of a Scale Measuring Effective
Clinical Teaching Behaviors. J Nurs Educ, 27(6),
274-277.

